

## ザンビアに暮らしてみて

青年海外協力隊 平成 25 年度 3 次隊

夏目一樹

はじめまして。2 年間、青年海外協力隊の一員としてアフリカはザンビアの中高等学校 Fatima Girls' Secondary School でコンピュータ科目の教師として活動しておりました。そして、その任期も 1 ヶ月を残して終えようとしています。

さて、突然ですが、「アフリカ」「途上国」「青年海外協力隊」、これらの言葉からどのような学校を思い浮かべますか？ 私が協力隊に応募した当初、想像していたものは↓のような学校でした。剥き出しの更地にニョキッと生えた平屋建ての校舎、砂っぽい教室…。みなさんも似た風景を思い浮かべたかと思います。



当初に想像していたザンビアの学校

そして、ザンビアの実情においてもこの風景は間違っておらず、都市部を除けば多くの学校が遠からず当てはまります。不謹慎との叱責を受けるかもしれませんが、こういった素朴な環境における活動はある側面において協力隊における醍醐味の一つであり、私自身も正直なところ期待を含めてザンビアに飛び立ちました。

が、近隣都市の Ndola から車を飛ばして 30 分、私の配属先である Fatima Girls' Secondary School に到着したとき、見た光景は全く異なるものでした。二階建てのしっかりとした校舎、芝生に覆われた広い中庭、講堂にテニスコートにプール、科学実験室、コンピュータ室…。日本人が思い浮かべるステレオタイプの「途上国の学校」とはかけ離れています。

それもそのはず、ここはカトリック系の教会団体が運営する全寮制の女子校、ザンビア全国でも 1, 2 を争う進学成績を持つ超進学校で、毎年全国各地から優秀な子供たちが集まってくるのです。ということで、ここでは一風変わったザンビア生活として、私の見たザンビアの進学校、その様子を紹介させて頂きたいと思います。



Fatima Girls' Secondary School (想像していたイメージと違う！)

## 1. 沿革

Fatima Girls' Secondary School はカトリックの修道会である Dominican Convent Sisters のシスターたちによって62年前に開校。当初は繁みの広がる一帯を切り拓き、煉瓦作りの小さな校舎1棟と数人の生徒で始まりました。以降、徐々に実績と発展を積み、現在では約500人の生徒を数えます。

## 2. 勉強

Fatima 生徒たちの朝は早い。起床は5時半、着替えに朝食、掃除を済ませて7時40分から授業が始まります。授業は一コマ40分を9コマ、土日を除いて毎日15時半まで授業を受けます。日本の学校に置き換えると、連日「7時間目」まで授業があるようなもので、この時点で私なんかは付いていけない気がします。

放課後を経て、夕飯後の18時半から21時までは夜間学習時間です。基本的には自習ですが、授業進度によっては先生がやってきて追加授業をします。なお、学級委員と風紀委員が見張っているので抜け出してサボることはできません。加えて、受験学年である9年生と12年生は早朝にも1時間の学習時間があります。その他の時間、例えば土日や放課後にも教室・図書室・中庭など、至るところで自習している生徒を見かけることができます。少しは休んだ方が良いのでは、と思うのですが…。

この努力のお陰か、例年半数以上の卒業生は「大学と学部を自由に選べる成績」で国家試験を通過します。奨学金を取って海外留学、という子も珍しくありません。みなさん、中学高校の頃はどれくらい勉強していましたか？

写真は私が担当していた8年生（日本でいうと中学2年生）のコンピュータ科目での授業風景です。真面目な子が多いといっても、やはりまだまだ子供な部分は多く、目を離すとすぐにお喋りを始めます…。



コンピュータ室で演習中

### 3. 学校行事

ザンビアでは、残念ながら少なくない学校が「授業を与えるだけの場」として機能しています。運動会、クラブ活動、卒業式…そういった学校行事や授業外活動が一切ない学校もあります。Fatimaはその点、日本の学校に近く、知識一辺倒ではないトータルな教育を施すことを方針としており、クラブ活動や学校行事も豊富です。

陸上大会、水泳大会、卒業式、三者面談、社会科見学、PTA 総会、生徒会選挙、宗教行事、等々、行事の数は一般的な日本の学校よりも多いのではないのでしょうか。しかし一方、こういった行事やクラブ活動は放課後や週末に行われるため、生徒にとってはますます忙しい学校生活であるようです。生徒によっては複数のクラブ活動を掛け持ちしている子もおり、中学・高校時代に帰宅部だった私にとっては頭の下がる思いです。



水泳大会



球技大会



卒業式



陸上大会



三者面談



ディベート大会



洗礼式



ミスコン



社会科見学

## 4. 日常

Fatima は全寮制の女子校で、生徒たちは学期休みを除く学校生活 5 年間に共に過ごします。学期中は土日も含めて外出禁止。もちろん携帯電話の持ち込みは許されません。ポケットマネーは各学期で 100 クワチャ (約 1200 円)、限られたお金を慎重に使わなくてはなりません。

そんな環境の中、職員会議で毎年挙がる話題があります。それは「密輸」。可愛い我が子を哀れに思った両親が休日の学校をこっそり訪問、食べ物やポケットマネーを手渡すというのです。今年の PTA 総会では「学内にピザを持ち込む両親がいます、止めるように」との注意が学校から出されました。

こうも毎日が勉強に行事にと忙しく、外出や連絡にも不自由し、加えて独りの時間も確保しにくい、となると、相当に抑圧された気持ちになりそうなものですが、生徒たちがそういった顔を見せることはほとんどありません。強いて言えば試験前くらいでしょうか。「この子たちは物事を考えているのかしら」と思わず感じるくらい、あっけらかんとした表情で毎日を過ごしています。もちろん、それぞれに悩みもあるのですが、いらぬことを考え込むことが多い私からすると羨ましい限りです。

カメラと見れば写真を撮れと喧しく、音楽が鳴り出せば条件反射で踊り出し、指示を出しても聞き逃すこと多数、叱っても翌日にはケロリと忘れてしまいます。しかし一方で、締めるべきところではピンッと締めることもできるので、ある意味でバランスの取れた性格を養うことが出来ているのでしょう。



「真面目にしろ」と言わずにカメラを向けるとこうなる

## 5. 情報教育

ザンビアでは今年から情報教育、つまりコンピュータが国家試験の必須科目として導入されました。教師として授業を行いつつ、試験にも対応できる体系的な形に教材や指導環境を整備することが私の主な活動です。

Fatima では幸いにも生徒全員が授業中にパソコンを操作できるだけの環境が揃っています。他校では「クラス 40 人に対してパソコン 3 台」「国家試験当日に初めてパソコンに触った」などといったケースも珍しくなく、それに比べると大変恵まれた環境です。しかしながら、学校、国、個人、いずれとしても情報教育は導入の初期段階であり、例えば「国家試験の必須科目であるのに、教育省認定の教科書が未だ出版されていない」といった状況で、Fatima を含めて全国全校が手探りの中で指導を進めていました。また、私が主に受け持った 8,9 年生も入学時点では生徒のほとんどが完全な初心者で、授業

も基礎の基礎、マウスの使い方からじっくり教えます。

この2年間、まともな教材もない困難な状況ではありましたが、放課後に復習のためコンピュータ室を訪ねてくれる等、生徒たちはよく努力してくれました。先月に行われた国家試験をもって私の主な活動は完了となりましたが、学校、生徒たちのいずれも着実に歩を進め続けてくれたらと思っています。

## 6. おわりに

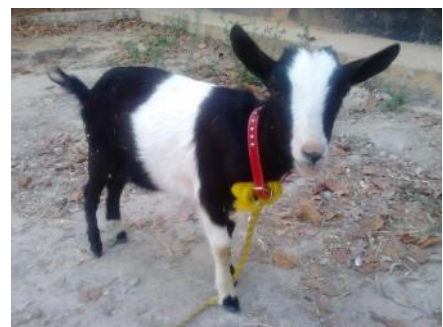
私が2年間を教師として勤めた Fatima Girls' Secondary School は、日本の学校に勝るとも劣らない教育環境を備えていました。それは設備の面だけでなく、教育の方針や質においても同様です。

もちろん、この学校においても「途上国らしさ」を感じる瞬間は多々ありました。例えば、物品の管理が甘い、時間にルーズ、約束を忘れる、等々。しかし、こういった全体傾向としての「途上国らしさ」を感じる瞬間はあっても、個人を見るにあたっては「途上国だから」「先進国だから」などとは決して言えないなと感じます。性格も能力もそれぞれです。「途上国の人だから考える力が低い」なんてステレオタイプの考え方をしていると痛い目を見ます。授業中に鋭い質問をされて口籠ることは少なくありません。専門分野以外の話題で議論なんてした日には、普通に言い負かされてしまいます。二進数の計算方法を教えたところ「こっちの方が早くない？」とその場で改良を提案されたことも…！

なお、私見ですが、ザンビアは女性の学力が高い国であるように感じます。事実、政府から発表される「高校成績ランキング」では上位校の多くが Fatima のような女子校で占められています。副大統領も女性 (Dr. Inonge Wina) です。今後は「女性のエンパワーメント」という世界的な方向性と相まって、ザンビアは女性に牽引され伸びていくのでは、などとも思っています。

最後に、この Fatima Girls' Secondary School、いわゆるお嬢様の多い学校ではあるのですが、必ずしも富裕層に限った学校というわけではありません。ザンビアの中産階級、例えば教師などの公務員、の収入であれば十分に通わせることのできる学費です。キリスト教徒でなくても通えます。「ザンビアに家族で移住！」という機会があれば (ないですか?)、選択肢の一つとしていかがでしょうか？

2015年12月15日



一時期、庭で飼っていたヤギ (美味しく頂きました)